

STAFF INTERVIEW

- 社員紹介#01 | KAGKASスタッフに聞いてみた -

住宅に携わり20年。プランナーが考える「顧客目線」とは？

不動産仲介会社に10年、大手リフォーム会社に10年と、「家」に関わるお仕事に長年従事してきた丸山さん。KAGKASのクライアント様の立場を経験してきた彼女だからこそ、その要望を汲み取り、ターゲット層をリアルに捉えた提案ができるのではないのでしょうか。KAGKASに入社して4年目の彼女が、日々どんなことを考えているのか、仕事やホームステージングにかける想い、実績をご紹介します。

#01

丸山 華子

HANAKO MARUYAMA
MANAGER

2021年入社
大阪本社所属プランナー

兵庫県出身
冒険家 (ISFP)



Designed by Freepik



2024年ホームステージングコンテストで準グランプリを獲得した事例。こちらのホームステージング事例では、ドライエリアのテラスを持つ物件の特徴を捉え、照明で深みや奥行きを表現することで暗さを感じさせない演出を心がけました。



丸山邸のインテリアスタイル。

1 | 北欧インテリアの温かみのある優しい雰囲気が好き。昔からインテリアにこだわりたい思いが強く、ご主人の趣味の兼ね合いもあり、マイホームは「車庫付き中古戸建購入後リノベ」という選択に。写真に写るベットのオカメインコ（メルシーが17歳）との時間が癒し。 2 | Yチェアやデザイナーズ照明と合わせてコーディネート。 3 | スウェーデン製のヴィンテージキャビネット（40歳の誕生日記念に購入）が特に気に入る。

きっかけは自宅のリノベーション。 自身の経験を活かすホームステージング

16年前、リノベーションすることを前提に戸建を購入した丸山さん。当時は不動産仲介会社に勤めていましたが、自宅のリノベーション経験がきっかけで大手リフォーム会社に転職しました。前職時代にKAGKASを知り、元々は取引先という関係性でした。

今の仕事で大切にしていることとして、「初めて物件に足を踏み入れた時の第一印象を大切に、広く見えるような家具配置や記憶に残るフォーカルポイントを作るなど、ステージングで工夫できることがないかを常に考えている」と語ります。自分の好きなコーディネートに仕上げたとしても、それはプランナーの自己満足。クライアント様は『早期で』『いい条件で』成約させるためにKAGKASに任せてくださっているの、そのご期待に応えたい...顧客側の経験がある彼女だからこそその想いは、彼女が生み出すプランや納品事例写真からも伝わってきます。



2



3



4

レトロ建築が好き。

4 | 昭和40~50年代のレトロな建物や団地などを見るのが好きで、旅行も趣味なので、宿泊先もレトロな雰囲気のホテルを選ぶようにしているとのこと。最近では、昨年11月に訪れた上高地帝国ホテルがとても素敵だったそう。 5 | ザ・プリンス軽井沢（建築家:清家清） 6 | ザ・プリンス箱根芦ノ湖（建築家:村野藤吾）

“チャンスの神様には前髪しかない” 座右の銘が仕事につながる瞬間

ホームステージングコンテストへのエントリーも、日々心掛ける座右の銘がきっかけだったそうです。ほぼ毎日、納品や現地調査で外出するKAGKASのプランナー。レトロ建築が好きな彼女は、仕事に思いがけず良い雰囲気の建物に遭遇することもあるそう。自分の「好き」に仕事に出会えるのも、“チャンスは来た時に捉えないと逃がしてしまう”という教訓からの、日々アンテナを張った行動の賜物なのでは？と感じました。



5



6

周りから見た丸山の印象は？

大阪本社のスタッフ達に丸山さんの印象を聞いたところ、第一声は共通して「仕事中心でも楽しそう！」でした。プレイングマネージャーとして時間の制約がある中でも、楽しみながらクライアント様の要望や物件にしっかり向き合い、どの案件に対しても魅せ方に妥協のないホームステージングを提案している点が社内からの厚い信頼に繋がっています。

「『丸山さんのおかげで成約になりました』というクライアント様からのお言葉が何よりの励み」と語る丸山さん。「KAGKASのステージングが“家”という高価な買い物の購入動機の一つになるように」と思いを込めて、今日も仕事に勤しんでいます。



7

7 | ありがたいことに、転職して3年以上経つ今でも前職の会社様よりご依頼いただいています。その度、ホームステージャーとしての成長を感じてもらいたいと思いつつながら向き合おう。